

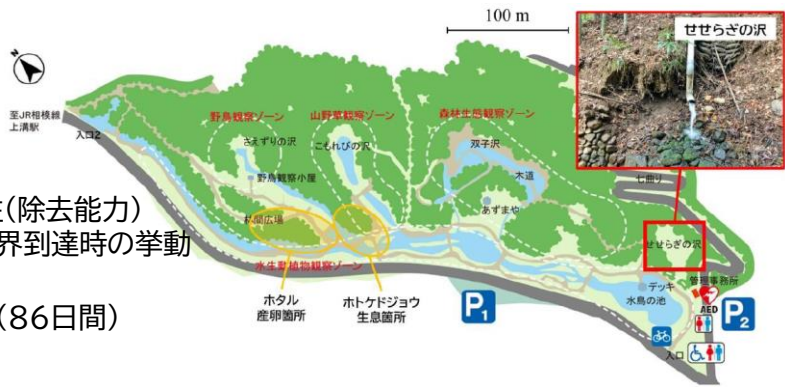
PFAS対策実証試験の結果について（概要版）

■ 実証試験の概要 ■

試験の目的 PFAS対策に係る知見の集積
⇒ 具体的な確認事項

- ・ 自然水中のPFAS除去の有効性(除去能力)
- ・ ろ材の寿命(ライフ)及び吸着限界到達時の挙動

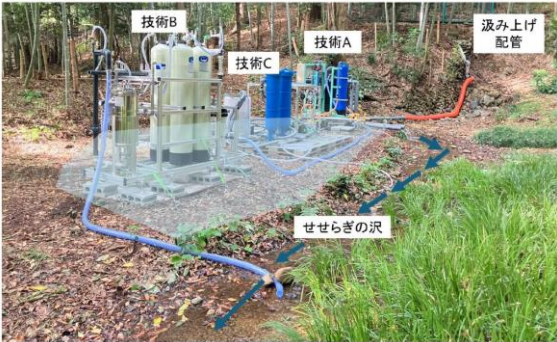
実施場所 道保川公園せせらぎの沢
実施期間 令和7年11月4日～令和8年1月28日(86日間)



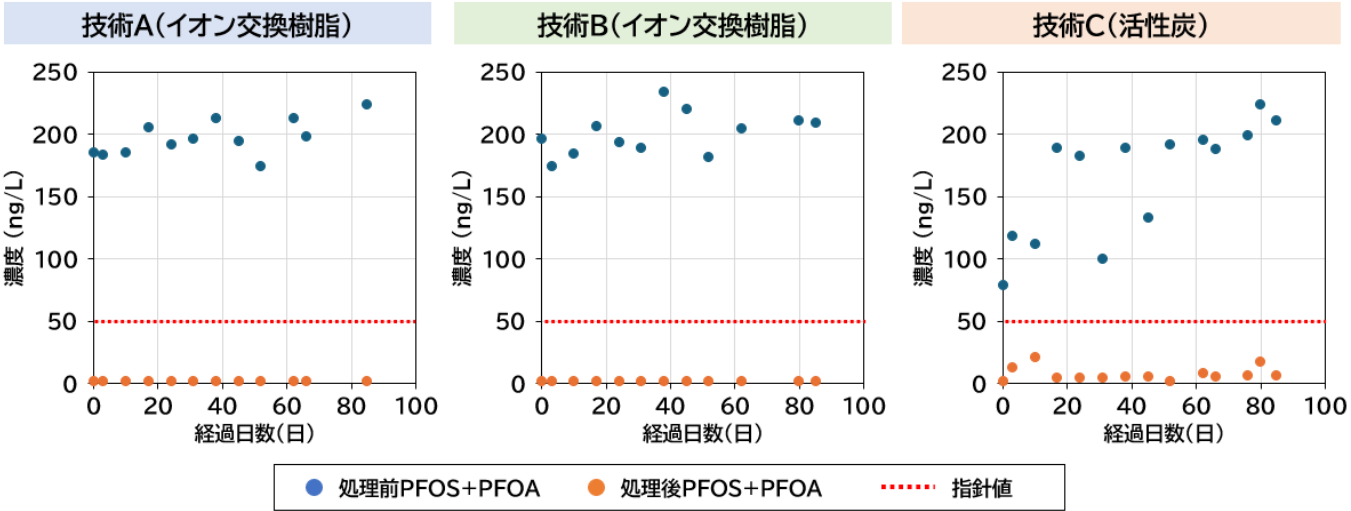
処理技術

項目	技術A	技術B	技術C
技術概要	イオン交換樹脂	イオン交換樹脂	粉末活性炭
処理量	1 m³/h	2 m³/h(1 m³/h×2本)	0.2 m³/h
必要面積	約1 m² 前置フィルター:0.5×0.5 m 吸着塔ユニット:0.6×0.6 m	約1.5 m² 2×0.7 m	約5 m² 1.1×1.1 mを4枚
外観			
設置方法	ブロックと単管パイプ	ブロックとベグ	パレットとベグ
使用電流量(計画)	1.3 A	2 A	4 A
使用電流量(実測)	1.25~1.32 A	1.76~1.82 A	0.30~0.50 A
協力会社	日本海水	室町ケミカル	流機エンジニアリング

処理装置(全景)



■ 道保川公園における実証試験(フィールドテスト)の結果 ■



まとめ

- 3種類の処理方法すべてでPFASの低減効果があった(目標としていた処理後の濃度50ng/Lを達成)
- 規制強化の可能性のあるPFHxSやPFBSに対する除去効果もあった
- 試験期間中に処理能力の低下はなかった(ろ材の寿命の計算や吸着限界到達時の挙動確認はできなかった)
- せせらぎの沢の水質であれば、メンテナンスは3か月に1回程度で十分と考えられる